



東北支社
〒980-0802 仙台市青葉区
二日町3-10 グラン・シャ
リオビル3階
電話 022-261-4289
FAX 022-261-4280

現場問題解決へ糸口探る

宮城鉄筋とコラボレート

JSCAが鉄筋設計施工WG

日本建築構造技術者協会（JSCA）東北支部（加藤重信支部長）は、技術委員会の下部組織の一つとして、新たに鉄筋設計施工問題ワーキンググループ（WG）を設置した。宮城県鉄筋工事業協同組合（岑直樹理事長）とコラボレーションし、現場における問題点を継続的に話し合うことで、その解決・改善を目指す。設計者と施工者間の認識の違いによる現場での課題が指摘されている中、双方が率直に意見交換し、問題解決の糸口を探る場として、今後の活動が期待される。

同支部では、数年前から同組合のメンバーと、1年に1回程度の割合で勉強会を開き、現場における課題やその解決に向けた意見交換を行ってきた。しかし、異なる組織であり、開催頻度が低いこともあって、具体的な成果につながらなかった。このため、

より頻繁に継続できるWG設置の必要性が高まっていた。こうした中、同支部では、若手技術者不足で会員が増えず、活動資金も不足するという構造的な問題の改善に向けて、賛助会を新設。これに、同じ「会員」の立場で意見交換する必要があると、同

組合の構成企業23社がすべて入会したこと、同支部の新しい組織として、会員と賛助会員による鉄筋設計施工問題WGが設置された。同支部では、鉄筋関係を含めて、今年度に設置したWGへの参加希望者を募り、現在集計作業を進めている。7月

中旬をめぐり技術委員会の今年度初会合を開き、参加メンバーや活動方針、活動内容などの詳細を詰めていく。現段階では、支部役員のほか、鉄筋組合と構造設計事務所、ゼネコンの設計担当者など10人を超えるメンバーとなる模様だ。

協議内容などは固まっていないが、おおむね月1回ペースで開催し、2、3年程度をかけて、報告書の作成など、具体的な成果を上げたいとしている。宮城で取り組み成果が上れば、他県でも同様の枠組みづくりを進めたい考えだ。さらに、宮城では今後、鉄

骨と地盤関係でも、会員と賛助会員で構成する設計施工問題WGを立ち上げたい考えだ。WGの設置について加藤支部長は「1年に1回ではその場の話で終わってしまう。継続することに大きな意義がある。（WGで）実務上の問題を解決することで、建物の品質が上がるとともに、お互いに無理・無駄・ムラをなくして効率化を図れる。解決に至らないまでも改善して少しでも役割を果たしていきたい」と語っている。

